第4章　管理・運営上の工夫

ちょっとした気配りや工夫で，練習や試合ばかりでなく，組織全体の活動が円滑になり，活発になります。以下に示すのは，管理・運営上のちょっとした工夫の例です。

① 責任体制を明確にせよ

各学年（あるいはグループ）の責任者を決め，責任体制を明確にしなさい。こうすることで指導者の責任感がより強くなり，練習の一貫性が生まれ，また一週間に一度しか会わなくても，一年経てば自分の担当する子どもの一人ひとりをよく理解できるようになります。

② グループわけを考えろ

子どものグループわけは，できる限り学年別にしたいものです。3学年を一つのグループにするのには無理があります。

③ 個人カードを作れ

一人ひとり子どもの個人カードを持つことは，いろいろな意味でメリットがあります。卒業の時の記念品としても，きっと喜ばれることでしょう。作成の際には項目を十分に検討する必要があります。

④ 指導者を確保しろ

指導者は高学年生に対しては少なくとも10名に一人，低学年生に4～5名に一人は確保したいものです。

⑤ 親の使い方を間違うな

指導者の確保という観点からは，親は重要な存在です。しかし親と指導者のけじめはしっかりつけなくてはなりません。また，自分の子どもの指導は担当させないというような配慮も重要です。

⑥ 指導者の研修，交流の機会を積極的に持て

指導者の研修・研鑽の場を積極的に持たなくてはいけません。雨で練習ができない日は，指導者の研修会を行うというのはいいアイデアです。地域協会等が開催する講習会には，積極的に指導者を派遣したいものです。夜の交

流ばかりが盛んなのでは困ります。

⑦　リサイクルしろ

子どもは成長が早いので，すぐにジャージやスパイクシューズが小さくなります。これらを組織的にリサイクルするのは簡単なことです。

⑧　任意保険に入れ

小学生のラグビーでの重篤な事故は，今まで報告がありません。しかし「転ばぬ先の杖」という諺もあります。子ども達はもちろんのこと，指導者の指導者保険にもぜひ加入したいものです。

巻末に付録として日本ラグビーフットボール協会より出された通達を掲載しました。それぞれの通達の趣旨をよく理解し，組織の管理・運営，そしてプレヤーの指導に役立てて下さい。

（川島淳夫）